

※クリックすると記事のページを開きます。

はじめに.....	2
教育制度.....	2
高等教育制度の変遷と現状	3

ミャンマーの教育制度

東京外国語大学ビルマ語研究室 編

はじめに

ミャンマーの教育制度は、社会主義政権時代から軍事政権時代（1988-2011）にかけて、政治情勢に絡みつつ、多大な変化を被ってきた。本報告は、ミャンマーの教育制度を、軍事政権時代の変化を踏まえ、その後成立した連邦団結発展党のテインセイン政権時代の教育政策をもとに述べる。ただし、2016 年に半世紀ぶりに登場した文民による国民民主連盟（NLD）政権（以下「スーチー政権」とする）では、教育改善が大きな政治目標として掲げられ、現在急速に初等教育や高等教育の方針見直しや改善が行われているので、必要に応じて最新の状況についても触れる。

教育制度

ミャンマーにおいて、教育は基本的に教育省が管轄し、基礎教育と高等教育に分けられ、それぞれ基礎教育局、高等教育局の管理下に置かれている。就学年数は基礎教育が 11 年で、内訳は小学課程が 5 年（幼稚課程+4 年）、中学課程が 4 年、高校課程が 2 年である。また、2014 年に国家教育法が制定され、そこには基礎教育を 12 年とすることが含まれるが、今のところまだ施行されていない。大学はすべて教育省の管轄下にあったが、後述するように民主化運動後の軍事政権下で、一部大学の管轄が変更された。また、現況では義務教育制度は取られておらず、基礎教育（小学校から高校まで）の充実が図られている。

高等教育制度の変遷と現状

1988 年の民主化運動において大学生がその中心となったことから、軍事政権下のミャンマーでは、大学の統制が教育より優先され、大学の分断や修学年数の短縮などの教育の弱体化が続いた。ちなみに、国家より正式に認可された大学は、教育省によれば 2013 年で 163 校、その後航空宇宙大学などが加わり、2015 年時点で 169 校である。

ミャンマーの大学制度の特徴は、地域における総合大学が必要な学問分野を学部として増やしていくのではなく、学問分野に応じて大学の種類が縦割りに定められ、それが一定地域をカバーする形で整備されてきた点にある。そのような中、総合大学に類似したものに「文理科大学」がある。これは、理学部（物理や生物等の基礎科学系）と人文・社会科学（歴史、法律、文学、哲学、心理学、人類学等）を有し、現在では各行政区の中心に置かれている。文理科大学の中核は、ヤンゴン大学とマンダレー大学の 2 大学（ユニバーシティ）であり、前者は下ビルマ（南部）、後者は上ビルマ（北部）の各大学（カレッジ）の学位授与の拠点となってきた。それ以外の大学は、学問分野ごとに特化され、医学、歯学、看護学、薬学、工学、農学、獣医学、水産学、海事学、文化（芸術）学、教育（師範）学等の専門大学として設立されている。軍事政権以降、工科大学（カレッジ）、教育師範大学（カレッジ）、文理科大学、さらに近年急増したコンピューター大学の 4 種類の大学が一つのセットとなり、20 ほどの地域クラスターとして配置されるようになっている。その一方で、入学者が少数民族、僧侶、軍人に限られる特殊な大学として、民族開発大学、国家仏教学大学、士官大学等が存在する。

【表：省庁と大学の配置、大学名】

大学数（ ）内は 2015 年の数値

	省庁	大学数	大学の種類	大学名(主なもの)
1	教育省	66 (68)	文理科大学（中核）	ヤンゴン大学、マンダレー大学
			文理科大学	バアン大学、タウンゲー大学、スィットエ大学等
			経済大学（3 大学）	ヤンゴン経済大学、メイッティエラ経済大学、モンユワ経済大学
			教育大学（中核 3 大学）	ヤンゴン教育大学、モーラミヤイン教育大学、ザガイン教育大学
			教育師範大学（地方 18 大学）	ヤンキン師範大学、ミャンミャ師範大学、タウンゲー師範大学等
2	科学技術省	56 (62)	工科大学（中核 4 大学）	ヤンゴン工科大学、マンダレー工科大学、ヤンゴン西工科大学、ビー工科大学
			工科大学（地方 28 大学、3 カレッジ）	ミッチナー工科大学、モンユワー工科大学、タウンゲー工科大学、パティン工科大学、バアン工科大学等
			コンピューター大学（中核 3 大学）	ヤンゴンコンピューター大学、ヤンゴンコンピューター大学（パハン区）、マンダレーコンピューター大学
			コンピューター大学（地方）	ミッチナー、タトン、スィットエ、ラーショー、モンユワー等
3	保健省	15	医科大学	ヤンゴン医科大学（第一、第二）、マンダレー医科大学、マグエ医科大学
			歯科大学	ヤンゴン歯科大学、マンダレー歯科大学
			看護大学	ヤンゴン看護大学、マンダレー看護大学
			その他	医科技術大学（ヤンゴン、マンダレー）、薬科大学（ヤンゴン、マンダレー）、伝統医学大学、公衆衛生大学
4	国防省	5 (6)	国防関連	国家防衛大学、士官学校、軍工科大学、軍医科大学、軍看護大学
5	協同組合省	5	協同組合大学	タンリン、ザガイン、バウンジー、マンダレー、漆工芸カレッジ
6	運輸省	3	海事・運輸関連大学	ミャンマー海事大学、ミャンマー流通大学等

先述のように、1988 年の民主化運動後に成立した軍事政権は、大学が民主化運動の拠点となることを恐れ、数年間全国すべての大学を閉鎖した。しかし、医療従事者やエンジニアが数年間輩出されない

影響は大きく、医学、歯学、工学等に専門化された大学については、管轄を教育省から他の省庁に移して開校されることとなった。その後は強力な統制下で徐々に大学が開校されていったが、長期間にわたり大学が異なる省庁に分断され、テインセイン政権においても 13 の省庁下に置かれる状況が続いた。さらに、大学教育は 4 年間から 3 年間となり、政治活動を恐れた結果、主要な都市部の大学が郊外に移転され、教育水準が著しく低下した。他方で、国費留学は公務員に限られ、国内の意欲ある学生は私費留学で海外に向かった。また、軍事政権への制裁として欧米への留学の道が閉ざされたため、シンガポールや中国や韓国、そして日本に相当数の学生が留学することとなった。

このような状況に対して、現スーチー政権では教育を重視し、幾つかの改革が行われている。その一環として、分断された工科大学の管轄は工業省から教育省に移された。また、テインセイン政権下で与えられた大学の自治を見直し、教育省のもとに統一的な教育制度の構築を目指している。

(2018 年 3 月記)